

## 第三回 幹事会 報告

第三回幹事会が、昭和六十二年一月二二日（木）午後六時四十分からREF会議室において開かれました。出席者は、本多（義）氏（副会長）、児玉氏（幹事長）、加藤氏（副幹事長）、前川氏（副幹事長）、稻葉氏（交通）、武井氏（土地利用）、橋本氏（地盤）、石森氏（理論研）、川村氏（研修会）、村松氏（情報、涉外）、竹内氏（財務支援）、齊藤（広報支援）の十二名で、以下の事項を協議、了承しました。なお、次回の幹事会は、昭和六十二年三月二十五日（水）に開く予定です。

## 一 静岡環境文化研究会との交流会報告

\* 前号でもお知らせしたように、無事終了し、多くの成果がありました。静岡環境文化研究会の方が来られた時は、厚く歓迎したい。

## 二 中間報告会実施要領について

\* 詳細は別欄を参照

## 三 上海都市調査について

\* 期間（予定） 八月六日（木）～十日（日）

\* 旅行費用 十六万三千円（概算）

\* 現在、約三十名の人参加希望しています。

\* 三月末に参加人数の最終決定をしますので、それまでにご連絡ください。

\* 例年通り、五月頃から上海ゼミを開始する予定。  
『世界の大都市② 上海』

発行所 東京大学出版会 三、〇〇〇円

## 四 REF財務状況について

\* 現在、REFの財務は非常に苦しく、残高がほとんどありません。そこで、中間報告会に徴収することにします。また、滞納者に対しては、推薦者を通して催促したい。

五 談話会企画について  
\* 二月二十四日に韓国都市調査の報告を実施します。詳細は、号外参照。

## 六 会員の移動等雑件

\* 杉村佳昭氏が退会されました。

## \* 入会 五名

浅井 光 氏（福井商工会議所）

伊豆原浩二 氏（日建設計）：会友

桙沢 秀雄 氏（三和測量建設）

笹木 龍三 氏（財）松下政経塾  
 林 博 氏（三和測量建設）

## 七 その他

\* 共同研究グループ ワークショップの案内

\* 三地域研究会 研究テーマは「人口流動」で意見がまとまつたが、その他のことはまだにまとめていない。

## 第四回 理論研究会八月報告会

第四回理論研究会が、昭和六十二年二月五日（木）午後七時からREF会議室において開かれました。出席者は石森氏、加藤氏、児玉氏、笹木氏（松下政経塾：新会員）、前川氏、齊藤の計六名で開催されました。今回の発表者は児玉氏、加藤氏、齊藤の三名で、『行動空間へのマーケティング』は終了しました。次回からのテキストとして、丸山真男の『文明論の概略を読む』（岩波新書）を使用することに決定しました。“丸山真男にはうるさい”という笹木氏が次回の発表者ということで、熱い討論がなされることを予想します。なお、次回は昭和六十二年三月十一日（水）午後六時三十分からREF会議室で開催する予定ですので、今回参加しなかつた人でも興味を持たれた方は、どんどん気軽に参加して下さい。

## わかるよ

交通計画研究室（西日本工業大学 堀 昌文先生）より、下記の資料が届きました。事務局にありますのでご利用下さい。

土木計画研究報告集 4 S61 12

西日本地域計画研究会 発行  
西日本工業大学地域計画研究会 発行  
西日本地域計画研究集 N.2 沖縄編 1986

## 三地域スタッフ募集！

三地域研究会では、研究スタッフを募集しています。研究テーマは、『人口流動』という漠然としたものですが、具体的にどのような点に着目して研究するのか、については今後スタッフでじっくり話し合って決めていくこうと思っていますので、何かこういうことをやったらどうか、こういうことをやりたい、と思われる方はどしどしご連絡下さい。お待ちしております。なお、福井は、山梨の人口流動について研究する予定です。

連絡先：三地域研究会 前川政人

## ワークショップのご案内

水分科会では、土木学会関西支部共同研究グループとして『福井地方における土木計画の土木史的再評価に関する研究』というテーマで研究を進めていますが、このほど下記のようにワークショップを開催することになりました。皆様のご来場をお待ちしております。

言己

日 時：昭和62年5月30日（土） 14:00～16:00  
会 場：シアターFBC・Aホール ☎ 0776-22-0100  
福井市大手3-4-1 福井放送会館6F  
国鉄福井駅下車、駅前大通り西へ徒歩約2分  
定 員：60名

## 第7期REF中間報告会開催される！

第7期REF中間報告会が昭和62年1月29日（金）18時30分より福井県職員会館101号室において開催され、約40名の参加がありました。

総合司会の竹内氏の進行のもと、開会の辞、富田会長による会長挨拶の後、分科会報告にうつり、石森氏の司会となり各分科会の報告が行なわれた。

まず、交通分科会は、『福井市の第3環状道路の基本構想』というテーマで研究をすすめており、今度氏が発表されました。つぎに、水分科会は、土木学会の共同研究グループとして『福井地方における土木計画の土木史的再評価に関する研究』というテーマで研究を行ないますが、今回は、その調査計画等について福原氏が発表されました。つづいて、地盤分科会は渡辺氏が『福井市中

心部の構造物支持地盤層分布（その3）』というテーマで発表され、今期で地盤データベースの作成は一通り完了する予定です。また、緑分科会は、『福井駅前周辺の街路景観－屋外広告物の実態－』というテーマで高嶋氏が発表され、駅前の都市景観整備への資料としての提案を行なうことを目的としています。最後に、土地利用分科会の武井氏が『福井市の都心問題について』というテーマで発表され、今期は都心問題の分析と有識者対象のアンケートを実施し、これまでの盛り場、商業空間に関する考察をまとめる方向で検討をすすめる、ということです。

つづいて、REFの顧問である栗田前副知事を御迎えしての懇親会となり、会員の親睦を深めました。……

### 魔都SHANGHAIへの誘い ① 映画「上海パンスキング」

深作欣二監督「上海パンスキング」は、昭和59年秋公開され、全篇に懐かしいジャズが演奏され、評判になった映画であるが、この正月にもテレビでも放映されたため、ご存知の方も多いと思う。もっともこの映画化以前にも、吉田日出子主演により東京の小劇場で相当前から上演されており、このときから人気を博したものである。

世界でも類を見ない雑沓の大都会、魔都上海。1930年代この街には世界46カ國の人々が雑居し、〈租界〉と呼ばれる植民地区には世界中からあらゆるものが流れ込み、政治の間の不安定な繁榮と自由にひかれて、多種多様な人種が集まつた。

舞台は、2.26事件のあった1936年から始まる。すでに窮屈になっていた日本を離れて、ジャズメン志願の風間杜夫とその妻ダンサーの松坂慶子が上海に上陸する。当時の上海は人口約300万人を擁し、売春とアヘンが蔓延していたが、また東洋のジャズのメッカとして米国から始め多数のジャズメンが腕を磨いていた時代であった。そこで二人は宇崎竜童らのジャズ仲間とともに、しばらくは楽しいジャズと新婚の時代を送ることになった。

しかし、翌37年の日本軍による上海占領、南京陥落により、情勢は一変する。ダンスホールでのジャズは禁止され、軍歌オンリーの時代となる。はかない抵抗として「海いかば」が突然ジャズ調に転調する場面は圧巻である。主人公はアヘンに溺れ、朦朧とした意識のなかで名曲「あなたとならば」、「シングシング」が流れる。というのが結末で、いわば戦争という非常時においての軟派の生きざまといったものを国際都市上海を背景として描いていると云えるだろう。

私達の内心は、何故あの時代において、上海がジャズのメッカとなり、自由な国際都市としてあったのかということであり、それが都市形成上どのような影響を与えたかということであろう。当然、列強が競ってもうけた〈租界〉が重大な影響を与えていたことは間違いない。それではなにゆえ、上海が列強の〈租界〉集中地となったか。上海の本来的地理的位置、当時の中国の国内情勢および国際情勢が関係してくるのだろう。

現代の上海においてジャズがどのようにになっているのか、租界時代の痕跡はあるのか、欧米都市計画のなごりはあるのか、その違いはどのようにしてあり、中国式にどのように生かされているのか、そして今後の課題は何かなど興味は尽きない。

\* 今後、「上海」に関する雑事を連載する予定である。

by Ko



## 第四回 幹事会 報告

第四回幹事会が、昭和六十二年三月二十四日（火）午後六時四十分からREF会議室において開催されました。出席者は、本多（義）氏（副会長）、児玉氏（幹事長）、加藤氏（副幹事長）、長村氏（総務）、塚本氏（財務）、武井氏（土地利用）、橋本氏（地盤）、杉原氏（広報）、川村氏（研修会）、斎藤（広報支援）の十名で、以下の事項を協議、了承しました。なお、次回の幹事会は、昭和六十二年五月十四日（木）に開く予定です。

## 一 上海都市調査について

\* 現在約三十五名の希望がありますが、申し込み金の振込により参加意志の確認を致します。（詳細は別欄参照）

## 二 REF財務状況について

\* 長期滞納者の取扱いが問題となっています。で  
きるだけ早く納入してください。  
\* 今年度の支払い滞納者については、ダイレクトメールで再度請求しますので、該当する人はよ  
ろしくおねがいします。

## 三 次回談話会企画について

\* 富山県都市計画課長（白井氏）に講演を依頼。  
雪問題や駅前再開発について四月中旬に開催を予定しています。  
\* 韓国釜山大学吳先生に依頼。（未定）

## 四 理論研究会の現状とアピール

\* 前号でもお知らせしましたが、テキストが丸山真男の『「文明論之概略」を読む』にかわりました。また、会のすすめ方も今までのレジュメ方式から、何らかの問題提起を行なって議論をすすめていくという方法にかわりましたので、みなさん気軽にご参加下さい。

## 五 越前古道馬借街道探索会について

\* 五月三十一日（日）に水分科会でこの馬借街道を歩くので、REFのレクリエーションとして参加してはどうか。

\* 府中馬借街道は、武生の市街地から西の方へ、馬塚—広瀬—当ヶ峰—大坂峠—下中津原—湯谷

—中山—今泉—河野まで約十五キロメートルの街道をいい、古代から昭和初期までの長い間、幾内と北陸とをつなぐ重要な交通路。（今回歩くのは、約三キロの指定箇所距離）

## \* 共同研究グループの募集（別欄参照）

## 六 会員の移動等雑件その他

\* 第二回アジア太平洋都市会議が名古屋で実施されます。（七月二十一（火）～二十六（日））自主論文を提出する場合は二万円の補助をします。

## 第五回 理論研究会△云報生日

第五回理論研究会が、昭和六十二年三月十一日（水）午後六時五十分からREF会議室において開かれました。出席者は石森氏、加藤氏、児玉氏、前川氏、斎藤の計五名という、いつもながらの少人数で開催されました。今回の発表者は前号でお知らせした「丸山真男にはうるさい」という笛木氏の予定でしたが、ご都合により欠席され、レジュメを読むだけに終わってしまい、非常に残念でした。なお、次回からは、発表形式をやめて何らかの問題提起を行ない、それについて議論をすすめるという方法ですすめていくことになりましたので、今まで参加をためらっていた人も気軽に参加してください。次回の開催は、四月二十二日（水）、REF会議室の予定です。

## 第六回 理論研究会△云報生日

第三回REF談話会が二月二十四日（火）午後六時三十分から、県職員会館四〇三号室において開催されました。今回は、昭和六十一年八月に行なわれた韓国都市調査の報告についてで、中田氏の司会のもとで、まず、本多（義）团长のあいさつ、村松幹事長の行動記録説明の後、班別報告に移り、交通は舟川氏、土地利用は那須氏、都市施設は内山、三上両氏からの報告がされました。その後、橋本氏から金海空港についての報告、そしてスライド上映、質疑応答がありました。

## 第6次REF海外研修 参加申込について

前回、上海都市調査の参加者を募りましたところ、多数の希望がありました。このたび、海外研修参加の人数確定をするため最終確認をとりたいと思いますので、参加者は前金を右記宛にお振込下さい。入金によって参加意志を確認致しますのでよろしくお願ひします。

詳しいことをお知りになりたい方は下記までご連絡下さい。

REF研修会担当幹事

〒910 福井市花堂1-7-25

三和測量建設株式会社 川村 一治

☎ 0776-36-2790

振込先 福井銀行本店営業部県庁出張所

普通預金口座 037629

福井地域環境研究会 上海都市調査団

代表 川村一治

振込金額 5万円（旅費の一部にします）

振込期限 昭和62年4月21日

## 会費納入について

昭和62年3月31日付にて会費未納者にはダイレクトメールを差し上げたところですが、ついうつかりと忘れておられた方は、早急にお納め下さるよう重ねてお願い申し上げます。なお、次回ニュースでは、お名前掲載にて直接御請求することになりますので、御了承下さい。

財務担当

## 昭和62年度 共同研究グループの募集

### 共同研究グループ設置の目的

この共同研究グループ制度設置の目的は、会員の共同参加による自主的な企画、運営により、土木工学および土木事業に関連する共通のテーマに関し、情報・意見の交換を基として調査、研究を進め、学術・技術の水準の向上をはかることがある。 (共同研究グループ制度規則第1条)

昭和62年度においても、本制度のなお一層の充実を図るべく共同研究グループを募集いたします。下記募集要領をご参照のうえ、ふるって応募されるようお願いいたします。なお昭和61年度新規設置のグループで継続して調査研究を希望される場合も下記の要領で再度応募してください。

### — 募集要領 —

- <テーマ> 共同研究グループ設置の趣旨にそるもので、特に部門は限定しません。専門的な領域からだけではなく、その周辺の問題あるいは身近な問題を取り上げることも歓迎します。
- <構成> 共同研究グループの構成はおおむね5~20名（職種は各方面にわたることが望ましい）とします。その代表者は正会員とし、構成員については土木部門以外の非会員の方も歓迎いたします。
- <企画書の提出> 代表者は以下の所定事項を記載した企画書2部（書式自由）を支部に提出してください。
- ①新規・継続の別、②テーマ（名称）、③目的と調査研究事項、④代表者名・所属・連絡先、⑤構成員名と所属・連絡先（会員・非会員の別）、  
⑥スケジュール（開催回数と開催予定期間）
- <提出期日> 昭和62年4月20日（月）必着  
提出先：土木学会関西支部 〒541 大阪市東区船場中央2-2  
船場センタービル4号館409号

## 魔都SHANGHAIへの誘い ②

### 上海ブルース

#### - 上海と日本人(1) -

♪涙ぐんでる上海の 夢の四馬路の街の灯  
リラの花散る今宵は 君を思い出す  
何にも言わずに別れたね 君と僕  
ガーデンブリッヂ 誰と見る青い月

♪橋の鈴さえ 淋しくひびく  
雪の曠野よ 町の灯よ  
ひとつ山越しや 他国の星が  
凍りつくような 国境

ご存じ懷メロ、上がディックミネの「上海ブルース」、下が東海林太郎の「国境の町」である。戦前の日本人は数多く中国に渡って行ったが、事の是非はともかくとして、これほど、日本人のイメージにあざやかに写し出された上海と満州の対比はないだろう。

満州は陸軍の進出圧倒とともに、内地から大量の農地開拓団が移民、今日の残留孤児問題を引き起こしているように、基本的には農業中心であったと思う。これに対して上

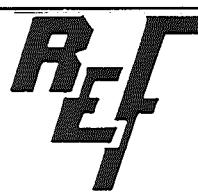
海は、すでに歐米列強の影響下にあり、まさに日本軍は遅れて来た軍隊であったのだ。第一次上海事変においても、結局は撤兵しているし（海軍は駐留）、日本軍の完全な支配下に入るのは南京陥落以降である。

と云うことは、それまで上海に渡って行った日本人たち一旗組は、軍の積極的な庇護もなく、おのれの活路を開いていかなければならなかったのであり、上海の性格上、商工貿易関係者等が多かった。そして、彼らの活躍の場は米英が支配する共同租界であった。当然内地では考えられない自由な都市的雰囲気と彼らのもともとの都市的性格が合致して上述の上海ブルースが生まれたものと思われる。

もちろん、上海は満州などとは比較できない中国の重要な都市として、以後農村を中心を移すものの当時は中国革命の根拠地であったのであり、厳しい民族対立の渦中にあった。内外紡業を中心とした日本紡績資本は、「女工哀史」を生んでいるし、「暴動事件」も発生している。

だが、都市の自由にあこがれる日本人たちは、当時長崎と上海に開設されていた定期航路（現在は定期航空路）を利用して続々と上海に渡る。（当時は旅券も不要だった。）そこでは、「満州」とはまた違った形で日本人と中国人との交流があったことはまちがいない。今でも「上海」に一種独特の感覚を持つ日本人は多い。

by K.



## 第五回 幹事会 報告

第五回幹事会が、昭和六十二年五月十四日（木）午後六時四十分からREF会議室において開催されました。

出席者は、本多（義）氏（副会長）、児玉氏（幹事長）、加藤氏（副幹事長）、前川氏（副幹事長・地域交流）、長村氏（総務）、塚本氏（財務）、稻葉氏（交通）、武井氏（土地利用）、石森氏（理論研）、杉原氏（広報）、川村氏（研修会）、村松氏（情報、涉外）、斎藤（広報支援）の十三名で、以下の事項を協議、了承しました。なお、次回の幹事会は、昭和六十二年七月九日（木）に開く予定です。

### 一 八七海外研修—上海都市調査

\* 現在十四名が五万円を支払い済みで、二十一名の参加が確定しています。まだ、未納の人で参加の意志がある人は五月中に振り込んで下さい。

\* 妻和田氏：六月九日（火）

六時三〇分 REF会議室

\* 参加する人はテキストを購入して下さい。

『世界の大都市② 上海』

東京大学出版会 三、〇〇〇円

### 二 土木学会関西支部ワークショップ

\* 約一時間の発表と二〇ページ程度のレジュメを配布する予定ですので、是非御参加下さい。

### 三 越前古道馬借街道探索会

\* 号外でお知らせしたように、五月三十一日（日）にこの馬借街道を歩きますが、REFから参加費用の半額負担（会員以外も含む）が決定しましたので、気軽に御参加下さい。なお、雨天決行（ルート変更あり）です。

### 四 第八回REF総会開催日程等

\* 七月十八日（土）午後二時頃から県職員会館で開催します。

\* REF第七号の編集発行  
\* 編集委員長：杉原氏（広報）に決定。  
\* 編集委員は五月中に各分科会より一名づつ選出して、編集委員長へ連絡して下さい。

### 六 REF財務状況

\* 努力のかいあつて、順調に支払いがされており、財務状況が好転しています。

### 七 次回談話会企画

\* 前回話題に上った富山県の計画課長の話は白紙の状態。

\* 九十九橋の研究を行なっている角野幸博講師（福井工業大学）による談話会を六月上旬から中旬に実施することを検討。

### 八 韓国東亜大学都市計画調査団福井調査

\* 担当：前川氏（地域交流）

\* 七月十八、九日または八月下旬あたりがいいのではないか。

### 九 会員の異動等雑件その他

\* 敬称略

\* 渡辺 達也 会員 ↓ 会友

\* 吉田 正 学生会員 ↓ 会友

\* 舟川 功 学生会員 ↓ 会友

\* 大林組（株） 〒101 東京都千代田区神田司町二一三

\* 那須聖志郎 学生会員 ↓ 会友

\* 〒500 岐阜市薮田十一三

\* 大日コンサルタント（株）

\* 〒0582-71-2501

\* 舟川 功 学生会員 ↓ 会友

\* 大日本コンサルタント（株） 大阪支社

\* 〒550 大阪市西区北堀江一一二二十九

\* 〒550 大阪市西区北長狭通四一一一二

\* (株) 西脇設計

\* 078-391-5505

\* 西川 美紀 会員 ↓ 退会

\* 滝 裕孝 入会（福井大学大学院） 交通

\* 中川大志郎 土地利用

\* 小牧リリアン美穂 入会（IRE嘱託研究員）

\* 「地方都市の交通を考える」シンポジウムの開催（別欄参照）

### 第八回 理論研究会開催日程等

第六回理論研究会が、昭和六十二年五月十九日（火）午後六時五十分からREF会議室において開かれました。出席者は石森氏、加藤氏、万匠氏、笛木氏、斎藤の計五名の今期最少人数で開催されました。今回は、第5講の国体・正統・血統、第6講の文明と政治体制について熱い討論がなされました。次回は、7、8、9講について討論する予定です。なお、次の開催は、六月十六日（火）六時三十分REF会議室の予定です。テキスト代の補助もありますので、振るって御参加下さい。

### 第五回 講演会告示

日 時：六月十二日（金）午後六時～

場 所：福井県職員会館 二〇一

講 師：角野幸博講師（福井工業大学）

九十九橋のアンケート調査報告を中心にして講演を行う予定です。

コーヒーブレイク

会員 無料

非会員 1,000円

## 第四回談話会告示

日 時：六月十二日（金）午後六時～

場 所：福井県職員会館 二〇一

講 師：角野幸博講師（福井工業大学）

九十九橋のアンケート調査報告を中心にして講演を行う予定です。

コーヒーブレイク

会員 無料

非会員 1,000円

## 分科会だより

### 交通

福井市の第3環状道路の基本構想について研究を続けており、資料収集等はほぼ終了し、原稿を書いている段階です。

次回開催日：6月17日（水）REF会議室

### 水

芝原用水や九十九橋に関する研究および土木計画の土木史的再評価について研究をすすめています。現在、資料収集がある程度終了した段階です。

Ps. ワークショップには是非御参加下さい。

次回開催日：5月27日（月）REF会議室

### 総合

街路景観－屋外広告物の実態－というテーマで研究をすすめており、資料収集が終わり、今後、調査等を行いまとめる予定です。

次回開催日：6月第1週

### 土地利用

福井市の都心問題についての研究を行っていますが、現在資料収集、有識者へのアンケート回収が終了し、分析を行っているところです。

次回開催日：6月10日（水）REF会議室

### 地盤

データベース化、地盤調査、基礎が実際にどのように使われているか、という3本立てで研究を進めています。現在、地盤調査、アンケート調査を行っており、次回は原稿のチェックを行う予定です。

次回開催日：6月24日（水）福井大学

## 中華民航の話

世界で最も安全な航空会社は中華民航（CA）であるといわれている。危険だと思ったら絶対に飛ばないからだそうだ。その一、天候が悪いと飛ばない。その二、整備が完了するまでは絶対に飛ばない。あたりまえと言えばあたりまえだが、徹底するとタイム・テーブルはあってないがごとしになる。

大阪で初めて我々の中国シアーの一行が顔をそろえたのは、出発の一時間程前であった。

「私達は、これから中華民航で上海まで飛びます。ですが、中華民航はいつ出発するかわかりませんので、あらかじめご了承ください。次の日のスケジュールは、前日の夕食の時にお知らせします。」と、添乗員のA娘は強くことわった。せっかちな日本人が、スケジュール通りにいかない旅行の責任を添乗員に迫られてはかなわないと、思っていたのかどうか。

彼女は、長い髪と小麦色（と言うより浅黒いと言ったほうがいいのだが）の肌をした小柄な、なかなかチャーミングな27、8才の女性で、大学はUCLAだそうである。

話はそれるが、最終日の北京のガイドは北京大学の学生で、実習としてガイドに来たらしい。一言で言えば、彼のガイドはいいかげんでいた。そのため、A娘は日本に帰る直前の北京空港で、何かのひょうしに彼と猛然と口論を始めた。口論は英語だった。あとで飛行機の中で、彼女いわく「喧嘩、口論は英語のほうがやりやすい。」と。

A娘の話はすぐに現実となった。乗り込んだ飛行機がいつになんでも飛び立とうとしないのだ。何の説明もなしに。世界一サービスが悪い航空会社もまた中華民航であると言われている。

南京から北京へ飛ぶ時は反対であった。4時頃に南京空港発と現地のガイドは説明したが、万が一ということもある、と言うので、昼食をすませてすぐに南京空港に向かった。出発まで2時間以上はあるということでのんびりかまえていたら、30分もたたないうちに出発するという。

ローカル線には、アントノフ（AN4）やバイカウント（VCC）などのプロペラ機が使われていると聞いていたので、ひょっとしたらと思っていたが、あいにくと「波音」（ボーイング）、中国では（世界でも）最高級の飛行機である。

そして飛行機に乗り込んだらもう離陸。一体、遅れていたら、南京へもう一泊ということになっていたのだろうか。それとも、日本からのシーア客のために、飛行機といい最大限のサービスをしたのだろうか。世界一サービスが悪いという汚名を挽回するために。

実は、何が起こるかわからないということに、シーアであっても中国旅行の楽しさがあるのかも知れない。

by AB

魔都SHANGHAIへの誘い ③

## 内務省都市計画技術者

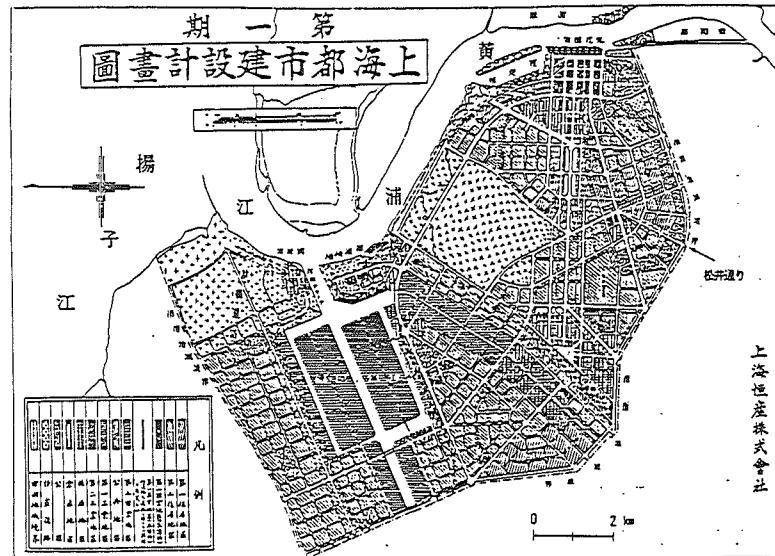
-上海と日本人(2)-

日本の都市計画は、制度的には明治21年の東京市区改正条例を嚆矢とし、以後大正9年の旧都市計画法及び市街地建築物法の施行をもって本格化し、昭和8年にはその適用対象を全ての市と特定の町村に拡大している。（福井市の適用は、昭和2年）しかしながら、当時の都市計画は予算的にも組織的にも常に付属的、少数派であり、また一般世論も規制をきらって、好意的ではなかった。（この「伝統」が、現在にも引き継がれていることは、ご存じのとおりである。）

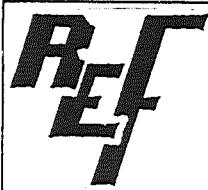
焦燥感に駆られる内務省の少壮都市計画技術者にとって、日本軍の大陸進出は、ことの是非はともかく、大きな実験場を与えられた形となった。軍は大陸経営の拠点としての都市整備について、都市計画技術者の援助を求めたのである。そして、この上海などもその対象となったのである。

上海占領後の復興基本方針は、揚子江河口の黄浦江左岸に吳淞工業地帯を中心とした7,700haの新都市を建設しようとするものであった。この計画は軍政以前から、国民政府が外国租界の権益を封殺するために租界前面に計画した「大上海計画」を下敷として、さらに発展させたものである。

この計画を実現するためにさまざまな試みがなされているが、特に注目されるのは、戦後日本の住宅公団方式等を先取りしていたとも云える、日華合弁の特殊法人上海恒産株式会社が設立され、強力な事業推進を図ったことである。上海恒産株式会社は一部の土地分譲や其美路（現四平路）等の幹線道路を整備して、敗戦とともに挫折したが、多くの軍関係者は異なり、その責任者は処罰されなかったと云う。



by Ko



NEWS

'87 SEP. 26  
第54号発行: RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI  
〒910 福井市中央3-1-5 三谷ビル204(財)地域環境研究所内  
福井地域環境研究会 ☎ (0776) 27-0078

## 第一回 幹事会 報告

第一回幹事会が、昭和六十二年九月二十二日（火）午後六時四十分からREF会議室において開かれました。出席者は、本多（義）氏（副会長）、児玉氏（幹事長）、加藤氏（副幹事長）、竹内氏（総務）、渡辺氏（財務）、稲葉氏（交通）、長村氏（水）、武井氏（土地利用）、鈴木氏（地盤）、石森氏（理論研）、黒川氏（談話会）、川村氏（研修会）、広田氏（総務支援）、中川（広報支援）の十四名で以下に承認、決定事項を報告します。

尚、次回は、十一月十九日（木）の予定です。

### 一 第八回REF運営方針について

\* 地域にアピールするようなテーマに取り組んで

今後ともじみちに活動していく。

\* 新しい会員、若いフレッシュな会員を募集する。

### 二 各業務執行基本方針、年間計画、及び当面の行事予定について

\* 総務  
データファイルの基礎資料を作成して、会員名簿を分析し、人事の考察を行いたい。ファイル名簿は、八期の間に作成したい。

\* 財務  
談話会、分科会等の事業費は、重点的に配布していきたい。会費の未納金については、各分科会でも書いてくださるようお願いしたい。

### 三 日本計画行政学会中部支部 福井研究研修集会について

十一月二十八日（土）、福井商工会館において「新しい地域構造と地域産業の構築」というテーマで研修集会を開く。（詳細は裏面）

### 四 新分科会結成について

北陸スノーアイズについては幹事会の都度検討していきたい。

### 五 会員の異動等雑件

#### 第一回談話会のよきらせ

年三～四回の談話会を開いているが、談話会に対する皆さんの希望、意見もききたい。海外研修のスライド会（上海）、福井（卓）先生のアメリカの話、歐州視察報告等を検討しており、地域の話題を含めた談話会も考えている。今後は、講演者「話す人」の情報を集めてゆき、また、談話会では多くの出席者を望む。

#### \* 研修会

上海都市調査報告を九月いっぱいに仕上げたい。

来年の研修先を、中国（北京）、台湾、東南アジア、インド、etc...と思案中で、第八期には大きな旅行をしたいと考えているが、今のところ検討中。

#### \* 広報

REFコースには分科会、理論研の便りも載せ、三か月に二回のペースで発刊していきたい。産官学クイズの出題者を順番にして、色々な方からクイズ問題を募りたい。

#### \* 理論研

今教材「文明論の概略を読む」が近く終わり、次回に新たな教材を決める予定。メンバーが固定化しないよう、色々な方の参加を望む。

第二回理論研は九月十八日午後六時四十分から同じくREF会議室で開かれました。出席者は、加藤氏、石森氏、前川氏、佐々木氏、滝君、中川の六名で加藤氏、石森氏、前川氏の三人の発表が行われました。

第二回理論研は十月十五日（木）午後六時半からの予定ですので、興味のある方は、ふるって、御参加下さい。なお、「文明論の概略を読む」が終わりに近づいていますので、何かテーマとなる教材がありましたら持ってきてください。

教材がありましたら持ってきてください。

#### 理論研究会

第一回理論研が八月二十二日午後六時半からREF会議室で開かれました。現在、理論研では、教材として福沢諭吉の「文明論の概略を読む」下巻を扱っており、西洋文明と日本文明を比較しながら、様々な事柄を議論しています。第一回の出席者は、加藤氏、石森氏、稲葉氏、前川氏、滝君の五名で加藤氏、石森氏、前川氏の三人の発表が行われました。

E F会議室で開かれました。現在、理論研では、教材として福沢諭吉の「文明論の概略を読む」下巻を扱っており、西洋文明と日本文明を比較しながら、様々な事柄を議論しています。第一回の出席者は、加藤氏、石森氏、稲葉氏、前川氏、滝君の五名で加藤氏、石森氏、前川氏の三人の発表が行われました。

#### 各分科会云報出ロ

#### \* 交通

北陸スノーアイズの検討を行う。

#### \* 水

昨年に引き続きアンケート、ヒアリングを行う。

#### \* 土地利用

北陸三都市の比較または福井の地価問題のテーマを検討中。次回の十月六日に決定する。

#### \* 地盤

ファーブ理論、土質の勉強をしていく。

# 日本計画行政学会中部支部 福井研究研修集会のお知らせ

開催日 昭和62年11月28日(土)午後1時~5時

主催 日本計画行政学会中部支部  
後援 福井県、福井商工会議所、(財)地域環境研究所

会場 福井商工会館5階大ホール

テーマ 「新しい地域構造と地域産業の構築」(登録済み)

## 講演(案)

仮題1、福井県新長期構想について.....福井県総務部理事 江川總弘氏  
仮題2、高速交通体系が地域産業に及ぼす効果.....大阪産業大学教授 今野修平氏  
仮題3、中部圏計画における北陸開発の方向.....岐阜大学教授 加藤 晃氏

## シンポジューム(案)

都心構造の刷新による地域産業の活性化  
コーディネーター.....福井大学助教授 本多義明氏  
パネリスト.....福井商工会議所青年部会長 小川 修氏(コンベンションについて)  
福井県港湾課長 三橋郁雄氏(イベントについて)  
富山県計画課長 白井芳樹氏(再開発について)  
JR西日本金沢支社工務部長 久保 晋氏(ステーション機能について)  
コミュニティ企画研究所長 富永六郎氏(都心型商業について)

## 準備委員会の構成(案)

顧問(学会顧問) 福井県知事  
準備委員長 本多義明 福井大学助教授  
幹事(学会会員) 加藤哲男、児玉忠、萬匠東亜男(福井県)、玉置伸悟(福井大学)  
前川政人(高志高校)、富田伊太郎(三和測量建設)  
〃(非会員) 石森信敏、稲葉隆夫(福井県)、浅井光(商工会議所)  
中村元則(三和測量建設)

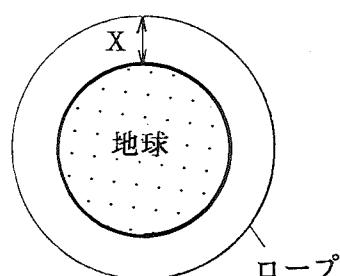
## プログラム(案)

総合司会 富田伊太郎氏  
1:00~ 開会  
1:05~ 来賓挨拶.....福井県知事に交渉中  
1:15~ 講演(一人30分)  
2:45~ プレイク  
3:00~ シンポジューム  
4:50~ まとめと閉会挨拶

## 第二回 産官学クイズ

問1 地球を完全な球としたとき、その赤道の長さより1km長いロープを用意する。そのロープをその赤道上に回し、そのロープが均等に地上から浮き上がるようにすると、一体どの程度浮き上がるか?

- ①約320m
- ②約160m
- ③約80m



問2 高速交通手段(定期便の飛ぶ空港、新幹線、高速自動車道)のうち、福井県は高速自動車道しかない。このような県は、あといくつあるか?

- ①3県
- ②4県
- ③5県

問3 高山英華氏が、自著の中である海外の都市を自治設計として挙げている。その都市は?

- ①南京
- ②シンガポール
- ③上海

出題 問1.....川村一治  
問2.....本多義明  
問3.....武井幸久



## 第一回 幹事会 報告

第二回幹事会が、昭和六十二年十一月十九日（木）午後六時三十分からREF会議室において開かれました。出席者は、加藤氏（副幹事長）、前川氏（副幹事長）、竹内氏（総務）、稻葉氏（交通、財務支援）、長村氏（水）、石森氏（理論研）、村松氏（情報、涉外）、広田氏（総務支援）、八幡氏（談話会支援）、中川（広報支援）の十名で、以下に承認、決議事項を報告します。

尚、次回は、昭和六十三年一月二十八日（木）の予定です。

## 一 日本計画行政学会中部支部

福井研究研修集会について

\* 昭和六十二年十一月二十八日（土）午後一時から福井商工会館五階大ホールにおいて、「新しい地域構造と地域産業の構築」をテーマに開催される。多くの方の参加を望み、みなさまの御協力をお願いする。

## 二 九月十一月の各業務執行報告、及び十一月の行事予定について

## 三 中間報告会について

\* 分科会相互の交流を求めるという趣旨も含め、次のように中間報告会を開く。

日程 昭和六十三年二月四日（木）

場所 職員会館四〇二号室

## 四

地域事業分科会の設立承認について  
\* 幹事長を笹木氏として、新分科会、地域事業分科会を設立する。（詳細は裏面）

\* 女性にも参加してもらっているので、おおいに期待している。

会計報告及び分科会補助金執行予定について  
\* 機関誌の印刷代をまだ払っておらず、会計状態は順調でない。「あなたの会費がない」と中間発表会ができるない」ということで未集金をなくしたい。財務の収集方法を検討

中で、一月の幹事会で財政運用について議題としたい。

\* 新分科会設立が認められたので、一万元の執行を決定する。

## 六 会員の異動等雑件（敬称略）

\* 中村 毅 入会  
(福井県土木部道路建設課 勤務)

興味のある分野：土地利用、交通、景観  
なお分科会へは次年度に加入を考えているとのことです。

\* 本田 周作 入会  
(北陸コンピューター専門学校校長)

地域事業分科会に加入しました。

\* 福井 真理子 入会  
(主婦)

地域事業分科会に加入しました。

興味のある分野：除雪  
田波 真佐恵 入会  
(福井県厚生部社会福祉課主査)

地域事業分科会に加入しました。

## 第三回 理論研究△△

第一回REF談話会が、十一月五日（木）午後六時三十分から県職員会館二〇一号室において開催されました。

今回は、昭和六十二年八月に行われた上海都市調査の報告についてで、黒川氏の司会のもとで、まず川村幹事長の行動記録説明がなされ、スライド上映の後、班別報告に移り、交通システムは齊藤氏、都市交通は稻葉氏、居住環境は東氏、土地利用は川村氏からの報告があり、質疑応答がなされました。

## 第二回 理論研究△△

第三回理論研究会が、十月十五日（木）午後六時半からREF会議室において開かれました。出席者は石森氏、加藤氏、児玉氏、三谷氏、板東氏、笹木氏、中川の計七名で、稻葉氏のレジメを児玉氏が発表し、中川、笹木氏の発表がありました。

今回で「文明論の概略を読む」は終わり各参加者の感想が述べられ、幹事の石森氏のまとめで、しめくくられました。次回からの教材については「経済社会分野の教材、現在の形あるものがおもしろい」（笹木氏）、「もやとした難くない教材がよい」（加藤氏）、「新書がよい」（児玉氏）といつた意見が交わされ、以下のよう教材に決定しました。なお、次回理論研は、十一月二十七日（金）午後六時半からの予定です。

## \* 土地利用分科会

地価についてのテーマをやることに決まり、次回は十一月三十日にやる予定。

## 新教材

「資本主義、社会主義、民主主義」（上・中・下）

（東洋経済出版、各千八百円）

## 第一回 談話△△

## 日本鉄道史その揺らん期

敦賀土木事務所 杉森正義

わが国の国鉄は、さる4月1日、100余年の歴史を閉じ、JR各社に分かれて新たに出発した。折しもその前日の3月31日、福井と滋賀県境にある柳ヶ瀬トンネルが装いを新たにし、県道として再開通の記念式典が行われた。

柳ヶ瀬トンネルは明治17年にできた延長1377mの単線の鉄道トンネルで、少し年輩の人なら、25%の急勾配を2台ないし3台連結のSLでスムーズに通った記憶をお持ちでしょう。それがいろいろの経緯の後、先般一般県道として供用されることになったわけである。

好運にして筆者は、柳ヶ瀬トンネルに補修工事を通して出会ったところから、わが国の鉄道史の一端を知り得たのでそれを紹介してみたい。国鉄の歴史を振り返っての感傷ではなく、かつて鉄道は最大の国家的プロジェクトであったはずであり、また、われわれが深く関わっている公共事業の歴史でもあるという点からこの問題を見てみたいと思うものである。

その前に、柳ヶ瀬トンネルそのものがたいそう興味深いので簡単に紹介しておきたい。

柳ヶ瀬トンネルの経緯を見ると次の通りである。

○ 明治13年6月着工、同17年3月30日完成

長浜一敦賀（金ヶ崎）間42.5kmの建設は、明治13年4月に始まり、同トンネルの完成により、明治17年4月16日に開通した。これは、明治5年の新橋一横浜間、明治10年の京都一神戸間に次ぐわが国3番目に当たる。

また、わが国技術者の手による最初の長大トンネルでもあり、これらを記念して、伊藤博文による「萬世永頼」の額および工事の概要を記す柳ヶ瀬洞道の額が、柳ヶ瀬（滋賀県）側と敦賀側坑口にそれぞれ掲げられていた。現在複製が現地におかれている。

○ 昭和32年10月、北陸本線が近江塩津ルートへ変更されたことにより、柳ヶ瀬線としてローカル運行となる。

○ 昭和39年5月、レールが撤去され、国鉄バス専用道トンネルとなる。その後、昭和45年より、北陸自動車道の建設の際資材運搬に使われたところから日本道路公団の管理となる。

○ 昭和61年3月、地元の強い要望により、福井・滋賀それぞれの県道に認定となる。この間、移管手続き、補修工事の費用などをめぐり、関係者によるいろいろなやり取りがあったと聞く。

○ 昭和62年3月31日、トンネルの補修工事を行って、一般自動車通行に供用開始。ただし、路線バスを除いて大型車の通行は制限されている。

長浜一敦賀間の鉄道開通がわが国3番目であることは、いうまでもなく日本列島横断の重要幹線であったことによるが、現在では県境を越えるとはいえ、ひっそりとしたローカル線にすぎない。もし人ならば時の流れを肌身に感じていることだろう。

しかし、道路の開通は思いもかけない効用を發揮する。クイズ形式で考えてみよう。

今庄から敦賀に向かうとき、北陸自動車道を別にして、一番安全で早いルートは次のどれか。

- (1) 武生にて国道8号線回り。
- (2) 大桐、山中トンネル、杉津回り（町道、市道）。
- (3) 新道、木の芽峠、新保回り（県道今庄敦賀線）。
- (4) 国道365号線、滋賀県余呉町椿坂、柳ヶ瀬トンネル、疋田回り。

答えは(4)である。

距離は(2)が最も短いが、一車線の真っ暗闇の山中トンネルの中で大型砂利トラックに出会ったとき、ある程度の腕力がものをいう。また、交通止めが頻繁にあり、通る前の聞込みが必要である。(3)の今庄敦賀線は、距離は(2)と同じくらいであろうが、いかんせん道路として開通していない。

このようなわけで、今日、各地でリゾートゾーンなど将来に向かってとりざたされ、現在においてさえ敦賀都市圏を考えるとき、丹南地域、滋賀県余呉町の中河内方面、木之本、今津などとの関係がきわめて重要であり、柳ヶ瀬トンネルで象徴されるローカルの道路網の整備が、新幹線、高規格道路などの大プロジェクトに劣らず重要であるといえる。

一方、柳ヶ瀬トンネルが通る山は、かつては刀根坂とか刀根峠、あるいは久々坂峠と呼ばれる古くからの行易路であり、特に、戦略上重用であったと思われ、朝倉義景、柴田勝家ら幾多の武将がここを通ったり、また戦の場となっている。元禄2年（1689年）、奥の細道の旅で、あの松尾芭蕉が刀根より柳ヶ瀬に越えたことも知られていて、峠や街道のルーツを見るのもおもしろいであろう。

## 日本計画行政学会中部支部 福井研究研修集会のお知らせ

開催日 昭和62年11月28日（土）午後1時～5時

主催 日本計画行政学会中部支部

後援 福井県、福井商工会議所、（財）地域環境研究所

会場 福井商工会館5階大ホール

テーマ 「新しい地域構造と地域産業の構築」（登録済み）

### 名古屋地域環境研究会 The Research Group of Region & Environment in Fukui

#### 地域事業分科会への入会案内

##### 『設立の趣旨』

「市民による地域社会の形成」と言った問題が提起されて久しく、それを具体化するための地域事業もいくつか試みられてきましたが、実現した事例は多くありません。このことは、住民の地域事業に対する欲求は根強いのですが、それを具体化して行く仕組みが甚だ貧弱であったことを示しています。特に住民相互のコミュニケーションに深く関わるような福祉や教育の分野に関しては、行政に頼ったり企業の営利活動に任せきるのではなく、住民自身が効率的に事業を推進する仕組みの確立が極めて重要な要素となっています。

地域事業分科会は、福井地域における市民事業の展開に向けて、その可能性調査を行い、あわせて仕組みづくりについての課題を明確化することを研究目的として、福井地域環境研究会の中の分科会として設立されるものです。

福井地域環境研究会は、地域整備の理論的水準の向上を目指して、昭和54年に設立された、産官学共同の自主研究グループですが、これまでの施設整備を中心とした諸研究の方法と成果を踏まえ、今回新たに、地域づくりの実践活動をテーマとした地域事業分科会が結成されることになりました。

福祉や教育の分野に限らず、幅広い市民による市民のための地域事業の運営に興味のある方の入会を募ります。

##### 『到達目標』

- 1、福井地域に即した具体的な市民事業活動を提示する。
- 2、仕組みづくりも含めた実現化へのステップを明示する。

##### 『調査研究項目』

- 1、対象とするべき領域の明確化
- 2、本県におけるボランティア活動や市民事業の実態調査と検討
- 3、他地域におけるモデルケースの検討
- 4、関係団体、団体、自治体の動向の把握
- 5、仕組み作りの検討

##### 『スケジュール』

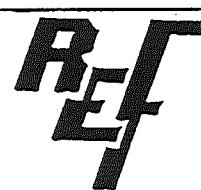
87年11月	分科会設立
~88年2月	調査研究活動
3月	調査報告および合意形成の場としてシンポジウムを開催
4月~6月	仕組み作りの検討
7月~8月	アメリカ合衆国での実状観察と交流（自費、希望者のみ）
9月	提言の発表
10月~	地域事業の実践活動に移行

##### 『地域事業とは？』

- 1、福祉サービス
- 2、文化活動支援
- 3、人材ネットワーク
- 4、コミュニティ教育サービス
- 5、地域活動コンサルティング
- 6、観光情報サービス

その他、対象領域は多岐にわたっています。

設立発起人 石森 信敏（福井県地域振興課主事）  
(50音順) 加藤 哲男（福井県福井土木事務所主査）  
 笹木 龍三（松下政経塾塾長）  
 田波真佐恵（福井県社会福祉課主査）  
 中邑 俊子（A.F.S日本協会福井支部長）  
 福井真理子（主婦）  
 本田 周作（北陸コンピュータ専門学校校長）  
 前川 政人（県立高志高等学校教諭）



NEWS

88 FEB. 10  
第56号

発行: RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI  
〒910 福井市中央3-1-5 三谷ビル204(財)地域環境研究所内  
福井地域環境研究会 ☎ (0776) 27-0078

## 中間報告会 開催

### 第11回 幹事会 報告会

## 第二回 談話会決定!

第八期REF活動の中間報告会が、昭和六十三年二月四日(木)午後六時から福井県職員会館四〇一号室において開催されました。

同日は、司会者の石森氏の進行のもと、各幹事会報告(内容は、以下の各分科会の記事を参照)、それに対する質疑応答が活発に行われ、その後、幹事長の児玉氏の開会の辞で懇親会に突入し、会員の親睦を深めました。

なお、出席者は以下の通りでした。

稻葉、岡幡、加藤、笠、児玉、差崎、本多(秀)、今度、武井、竹内、富田、長村、万匠、広田、八幡、本多(義)、前川、村松、石森、城下、橋本、渡辺、高嶋、中島、鈴木、関野、笛木、斎藤、中川、滝、福井(卓)、舟川(敬称略)

#### \*交通分科会

「高速交通体系を生かした全国的イベントの計画」と題して、八幡氏が発表。

#### \*水分科会

「福井地方における土木計画の土木史的再評価に関する研究」と題して、長村氏が発表。

#### \*縁分科会

「屋外広告物」について、高嶋氏が発表。

#### \*地盤分科会

「地盤指標の面的分布の評価について」と題して、中島氏が発表。

#### \*地域事業分科会

「活動領域の明確化、研究、調査」について、笛木氏が発表。

#### \*土地利用分科会

「福井市における地価構造」と題して、武井氏が発表。

第三回幹事会が、昭和六十三年一月二十一日(木)午後六時三十分からREF会議室において開かれました。出席者は、本多氏(副会長)、児玉氏(幹事長)、加藤氏(副幹事長)、長村氏(幹事長)、前川氏(副幹事長)、竹内氏(総務)、渡辺氏(財務)、稻葉氏(交通、財務支援)、長村氏(水)、鈴木氏(地盤)、石森氏(理論研)、黒川氏(談話会)、村松氏(情報、涉外)、広田氏(総務支援)、笛木氏(地域事業)、中川(広報支援)の十五名で、以下に承認、決議事項を報告します。

尚、次回は三月二十四日(木)の予定です。

二月四日に行われた中間報告会について、出欠の再確認などが行われました。

#### 会員の移動等雑件

会員六十六名、学生会員四名、会友二十二名の報告でした。山田幾雄氏(福井市都市計画課)は、二月から入会です。

#### 理論研究△△

第四回理論研が昭和六十二年十一月二十七日(金)午後六時半からREF会議室で開かれました。現在、理論研では教材としてションペーターの『資本主義、社会主義、民主主義』(上巻)を扱っており、マルクスの資本論から始まり、様々なことを議論しています。第四回の出席者は、石森氏、加藤氏、児玉氏、笛木氏、前川氏、万匠氏、滝君、中川の八名でした。

第五回理論研は、昭和六十三年一月十二日(火)午後六時半から、同じくREF会議室で開かれ、出席者は、石森氏、加藤氏、児玉氏、前川氏、万匠氏、中川の六名でした。

なお、次回の理論研は、二月十六日(火)の予定です。

題...「歐州の高次都市機能」  
発表者: 山本 迪氏 (REF会員)

日時: 二月二十四日(水)六時半より

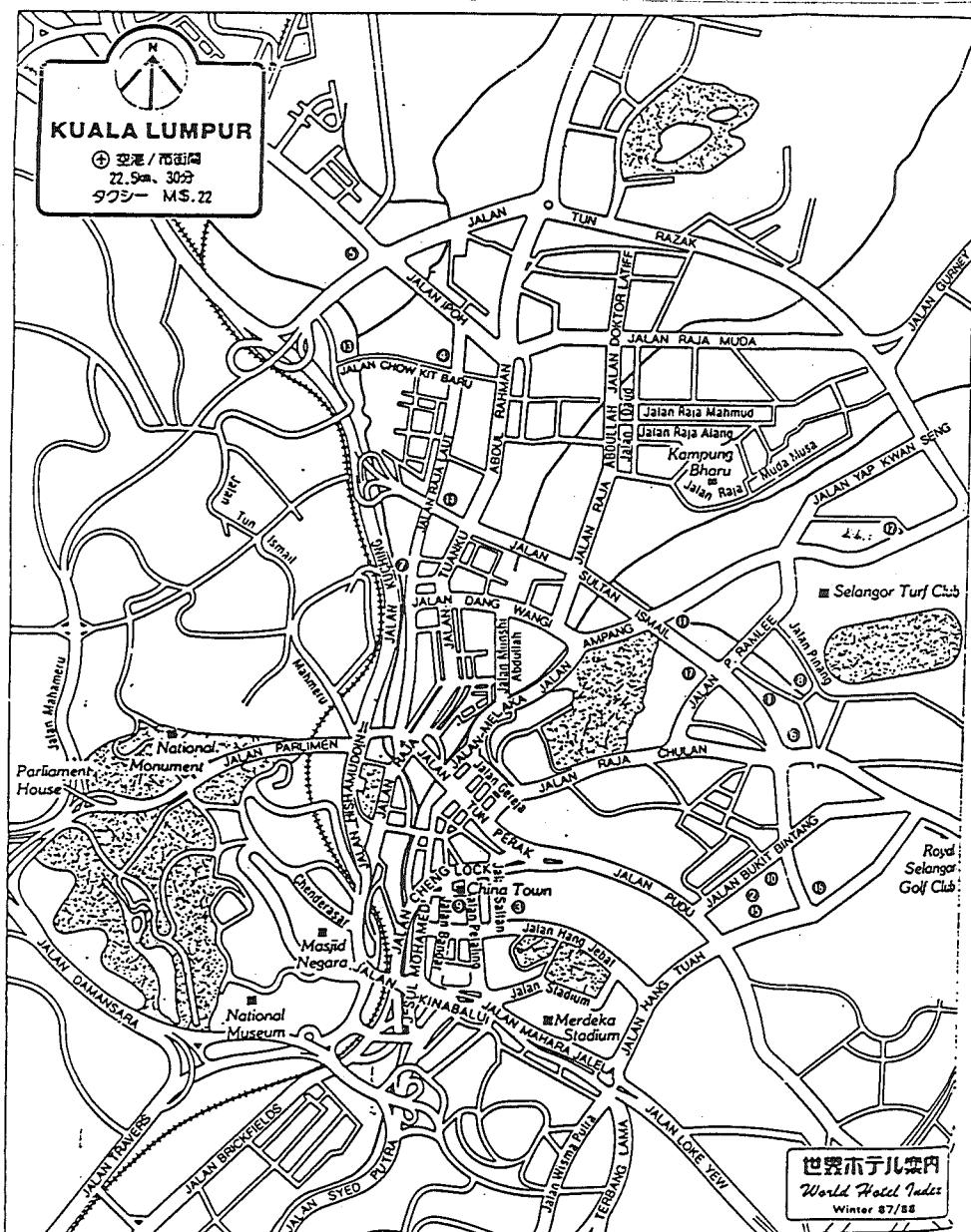
場所: 県職員会館二〇一号室

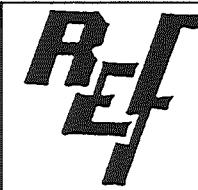
内容: 山本氏は昨年八月、日本計画協会主催による「歐州高次都市機能調査団」の一員として、イギリス、フランス、オランダを訪問され、再開発、新都市(テクノパーク)、リゾートを中心各都市を調査されてきました。この調査の内容をスライドを交えながら発表して頂く予定です。この高次都市機能に関心を持たれている方の多数のご参加をお待ちしております。  
...談話会幹事

REF海外都市調査団の旅程(別面詳細)

REF 海外都市調査団 旅程

日	月日(曜日)	地名	現地時刻	交通機関	摘要	朝	昼	夕
1	8/05 [金] 又は、 8/06 [土]	大阪発 香港着 香港発 ケラ・ランプール着	11:20 14:30 15:30 19:00	CX-503 CX-721	キャセイ航空機にて空路、 香港へ 乗り換えて、ケラ・ランプールへ 着後、ホテルへ (ケラ・ランプール泊)	内	内	内
2		(ケラ・ランプール)			午前、市内観光 午後、班別調査 (ケラ・ランプール泊)	○	○	×
3		(ケラ・ランプール)			班別調査 (ケラ・ランプール泊)	○	×	×
4		(ケラ・ランプール)			班別調査 (ケラ・ランプール泊)	○	×	×
5		ケラ・ランプール発 香港着 香港発 大阪着	11:00 14:35 16:15 20:20	CX-720 CX-502	キャセイ航空機にて空路、 香港へ 乗り換えて、大阪へ 着後、解散	内	内	内





## 第四回 幹事会 報告

第四回幹事会が昭和六十三年三月二十四日(木)午後六時三十分からREF会議室において開かれました。出席者は、児玉氏(幹事長)、前川氏(副幹事長)、竹内氏(総務)、渡辺氏(財務)、石森氏(理論研)、武井氏(土地利用)、川村氏(研修会)

杉原氏(広報)、中川(広報支援)の九名で、以下に承認、決議事項を報告します。

尚、次回は五月二十五日(水)の予定です。

一 海外研修(マレーシア都市調査)について

十人位で、二十万位のところ。四月九日締切の予定。

### 二 各業務担当幹事経過及び予定報告

#### \* 談話会

今のところ予定はなく、計画を立てているところ。

#### \* 広報

つぎのニュースは四月上旬に発行の予定。

#### \* 理論研究会

次回最終回は四月二十一日(木)に行う予定(別面詳細)。

#### \* 財務

分科会助成金についてはつぎのような予定。

地域事業分科会(四万)、水分科会(三万)

土地利用分科会(四万)、緑分科会(四万)等

女性会員については会費が半額。

会費未納金はお早く願いたい。

REF十周年記念行事の企画検討について  
昭五十四年十一月にできたREFはもなく十周年を迎えることを記念してなにか行事を行う予定。

大型海外旅行は少し無理があるので、「来賓交流の会」等を考えている。  
費用は、半額負担の予定。

第六回理論研究会が、昭和六十三年二月十六日(火)REF会議室で開かれました。

第七回理論研究会が、昭和六十三年二月十六日(木)REF会議室で開かれました。出席者は、石森氏、加藤氏、児玉氏、万匠氏、前川氏、中川の六名で児玉氏、中川の発表でした。

「緊急提言」行動について  
何かアピールみたいなものができないかと  
いうことで考えているが、県レベルの内容等  
については難しいので、もう少し時期を待つ  
て、いろいろ考えていく予定。

### 五 土木史研究発表会について

水分科会を中心となつて発表していく予定。

### 六 「丹南地域環境研究会」について

産官学の有志による丹南地域環境研究会設立  
総会が、昭和六十三年二月二十日武生市において開かれた。(別面詳細記事)

### 七 会員の移動等雑件その他

#### 敬称略

\* 福原 輝幸 会員→会友

\* 関野 優 会員→会友

\* 齊藤 浩幸 学生会員→会友

〒662 兵庫県西宮市上ヨシ原町3-13  
積水ハウス西宮寮

\* 富田 藤波 入会

〒910 福井市大手3-17-11

福井県土木部計画課

\* 一守 由紀夫 入会(福井大学大学院) 交通

### 理論研究会

第六回理論研究会が、昭和六十三年二月十六日(火)REF会議室で開かれました。

第七回理論研究会が、昭和六十三年二月十六日(木)REF会議室で開かれました。出席者は、石森氏、加藤氏、児玉氏、万匠氏、前川氏、中川の六名で児玉氏、中川の発表でした。

REF連外都市間相互旅程  
一 日田、(8/15~18/10)  
大阪発(11:20) 香港着(14:30)  
香港発(15:30) クアラルンプール(19:00)

R E F 連外都市間相互旅程

一 日田、(8/15~18/10)

大阪発(11:20) 香港着(14:30)  
香港発(15:30) クアラルンプール(19:00)

三 日田、[クアラルンプール]  
市内観光、班別調査

四 日田、[クアラルンプール]  
班別調査

五 日田、クアラルンプール発(11:00) 香港着(14:35)  
香港発(16:15) 大阪着(20:20)

香 港 発(16:15) 大阪着(20:20)

# 丹南地域環境研究會設立

元量 63.221 手

卷下

知識集め快適丹南を

産官学52人で環境研究会

丹南地域環境研究会の設立にわたる専門的な知識の集約の道コースを作成するべく、総会が二十日、武生市中央公民館で開かれた。丹南地方の各町村から官民の有志五十二人が参加した。

最初に発起人を代表して福井高尙の郷土史教授があいさつし、「環境問題を考えるには、はや丹南地方に点在する文化財や歴史を調査し、丹南歴史館に囲むする住民の意識調査などを通じて、文化、イメージアップを図ること」を目的として、研究計画として、公園の分布、利用状況などを調べ、より有効な配慮や利用方法を研究する環境問題について、積極的に提言していく」と述べた。

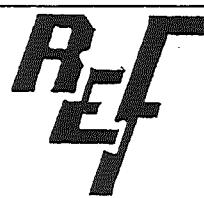
顔して話した。  
総会の後、パーティーが開かれ、来賓として招かれた笠原武生市長は、「全国的・専門的な知識や研究の成果を行政に生かし、心懃かで住みよい地域社会づくりに役立てたい」と述べ、研究会の今後の活動に期待を寄せていた。

設立総会  
記念講演として、郷土歴史「一南条郡から地名を拓ぐ」と地理的歴史の上を踏み出す  
する」などを發表した。

63-2. ~~22~~<sup>22</sup> 日 利

丹南環境研が発足

一〇



NEWS

, 88 JUN. 6  
第58号

発行: RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI  
〒910 福井市中央3-1-5 三谷ビル204(財)地域環境研究所内  
福井地域環境研究会 ☎ (0776) 27-0078

## 第五回 幹事会 報告

\* 理論研究会

四月二十一日にシユムペーターの

「資本主義、社会主義、民主主義」

(上)が終わり、現在、堺屋太一の

「知能革命」を教材にしている。

\* 財務

未納者は、会員七名、会友四名で  
納入をお早く願いたい。

第五回幹事会が昭和六十三年五月二十五日  
(水)午後六時四十五分からREF会議室に  
おいて開かれました。出席者は、児玉氏(幹  
事長)、加藤氏(副幹事長)、前川氏(副幹  
事長)、渡辺氏(財務)、川村氏(研修会)、  
黒川氏(財務)、長村氏(水)、笛木氏(地域  
事業)、中川(広報支援)等の十名で、以下  
に承認、決議事項を報告します。

尚、次回は七月十三日(水)の予定です。

### 一 第八期総会について(総務)

第八期総会は、七月二十三日(土)に、

午後三時から総会、午後六時から懇親会を  
行う予定で、参加費用は一人二千五百円、  
学生千円の予定。発表者や内容など詳細に  
ついては七月の幹事会で決定する。

### 二 REF八号の編集について(広報)

編集委員長は杉原氏、原稿締切は七月十  
三日(水)の予定で編集のやり方は去年と  
同じ。

### 理論研究会△

第八回理論研究会が、昭和六十三年四月二

十一日(木)REF会議室で開かれました。

出席者は、石森氏、加藤氏、笛木氏、前川氏、  
滝君、一守君、中川の七名でした。

第三回談話会を六月十六日(木)午

後六時半より行う。題目は『地方都市  
における都市計画行政に携わって』、

講師は木村太郎氏、会場は福井県職員  
会館二〇一号室。(別面詳細)

発表でした。

## REF 第二回 講話会 のお知らせ

第三回REF講話会を以下のないようで開  
催致します。今回は長年、地方都市の都市計  
画行政に携わり、現在は民間の建設コンサル  
タントで活躍されている木村太郎氏を講師  
に迎え、行政・民間・住民のそれぞれの立場  
からみた地方都市における都市計画行政につ  
いて、経験談などを交えながらお話しをして  
いただきます。

\* 題目『地方都市における都市計画行政  
に携わって』

\* 講師 木村太郎氏

(三和測量建設(株)顧問)

\* 日時 六月十六日(木)

午後六時三十分より

\* 会場 福井県職員会館 二〇一号室

### 第七回 海外研修について

マレーシア海外研修の内容は以下のよう  
な予定になっています。

\* 行先 クアラルンプール(マレーシア)

\* 日程 八月五日(金)～九日(火)

\* 参加予定者(敬称略)

木田 義明、滝 裕孝、中川 大志郎、  
萬匠 東里男、津田 直昭、

高松 具明(未確定)、佐藤 秀樹(未確定)  
松田 治、花岡 利幸、大山 敏彦、深沢 又男、曾越 孝義

\* 幹事、連絡先 一守君(第三章 次代は「高技術中世」か?)の

発表でした。

川村一治

# REF 第3回談話会のお知らせ

## 講師紹介

昭和63年5月25日

木村 太郎氏

殿

談話会幹事 …… 黒川

拝啓 青葉のさわやかな候、会員の皆様におきましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、第3回REF談話会を以下の内容で開催いたします。今回は長年、地方都市の都市計画行政に携わり、現在は民間の建設コンサルタントでご活躍されている木村太郎氏を講師に迎え、行政・民間・住民のそれぞれの立場からみた地方都市における都市計画行政について、経験談などを交えながらお話をさせていただきます。

ご多忙中とは存じますが、万障くり合せてご出席下さるようお願ひいたします。

題 目；『地方都市における都市計画行政に携わって』
講 師；木村 太郎 氏 [三和測量建設(株)顧問]
日 時；6月16日(木) 午後6時30分より
会 場；福井県職員会館 201号室

略歴

昭和2年7月	石川県金沢市生まれ
昭和23年3月	金沢工業専門学校卒(現金沢大学)
昭和23年4月	株式会社真柄組入社
昭和38年1月	福井県土木部計画課
昭和42年5月	岐阜県土木部
昭和46年10月	富山県土木部都市計画課
昭和50年4月	高知県土木部都市計画課 課長
昭和52年4月	" 参事
昭和52年4月	石川県土木部都市計画課 課長
昭和53年4月	" 次長
昭和54年4月	群馬県土木部都市計画課 課長
昭和58年4月	" 技監
	(昭和57~59年度 群馬大学講師)
昭和59年4月	玉野総合コンサルタント株式会社 取締役
昭和62年9月	三和測量建設株式会社 顧問
	現在に至る

## 第7回海外研修参加予定者名簿

行先：クアラルンプール(マレーシア)

日程：8月5日(金)～9日(火)

最終確定ひいてあります。

(昭和63年5月20日現在)

氏 名	所 属	電 話 番 号
本多義明	福井大学建設工学科	0776-23-0500
滝裕孝	福井大学建設工学科大学院	"
中川大志郎	"	"
萬匠東亞男	福井土木事務所	0776-24-5110
津田直昭	津田技術士事務所	0770-52-3940
△木田具明	(株)大林組福井営業所	0776-22-5581
△佐藤秀樹	玉野総合コンサルタント(株)	052-452-1301
高松治	大日本コンサルタント(株)	0489-88-8111
花岡利幸	山梨大学環境整備工学科	0552-52-1111
大山勲	"	"
松田敏彦	甲府市道路維持課	0552-37-1161
深沢又男	山梨県道路維持課	0552-37-1111
曾雌孝義	山梨県都市拠点整備室	"

△は未確定



NEWS  
REF

'88 SEP. 1  
第59号

発行: RESEARCH GROUP OF REGION AND ENVIRONMENT IN FUKUI  
〒910 福井市中央3-1-5 三谷ビル204(財)地域環境研究所内  
福井地域環境研究会 ☎ (0776) 27-0078

## 第九回総会 開催される

第八期活動を締めくくり、次期活動計画を討議する第八期分科会報告会及び第九回REF総会が、七月二十三日(土)葵会館において開催されました。まず、報告会が予定より約二十分遅れて午後三時二十分から総合司会の長村氏による開会の辞で始まり、幹事長挨拶の後、川村氏の司会により各分科会報告が行われました。交通分科会は稻葉氏、水分科会は加藤氏、緑科会は杉原氏、土地利用分科会は沢崎氏、地盤分科会は竹内氏、そして第八期より活動を開始した地域事業分科会は笹木氏が発表し、それぞれの報告について活発な質疑応答がなされ、研究内容の濃さがうかがわれました。

続いて、五時十五分より総会に移り、開会の辞、会長挨拶、会友祝辞(佐藤氏、玉野総合コンサルタント)、新入会員紹介及び会員等移動報告、児玉氏による第八期活動報告、議長選出(中村氏)と続き、議決事項三件が提案され、承認されました。(以下にその内容を記載)

その後、第九期活動方針について、まず幹事長の加藤氏が決意表明、そして各分科会会长により分科会活動方針、各幹事により理論研究会、談話会、研修会の活動方針が説明されました。最後に副幹事長による閉会の辞で第九回総会は幕を閉じました。

また総会終了後懇親会が催され、乾杯、歓談と続き、今後のREFについてのスピーチ、意見交換が行われるなど、盛況のうちに万歳三唱をもって閉会となりました。

- 議決事項
- 第八期決算報告について
- 役員改選について
- 第九期予算案について

第九期役員案(敬称略)

会長	富田伊太郎	副会長	本多義明、児玉忠
幹事長	加藤哲男	幹事長	長村一男、前川政人
幹事	渡辺知幸(財務)	幹事	広田卓哉(総務)
"	八幡智和(交通分科会、談話会)	"	近藤幸次(緑分科会)
"	澤崎幸夫(土地利用分科会、広報)	"	福井一治(研修会)
"	稻葉隆夫(財務支援)	"	川村信敏(理論研究会)
"	橋本栄治(総務支援)	"	中村元則(談話会支援)
"	一守由紀夫(広報支援)	"	笹木竜三(地域事業分科会)
"	石森信敏(理論研究会)	"	福井一治(研修会)
"	橋本栄治(総務支援)	"	川村信敏(理論研究会)
"	一守由紀夫(広報支援)	"	中村元則(談話会支援)
"	笹木竜三(地域事業分科会)	"	福井一治(研修会)
"	石森信敏(理論研究会)	"	川村信敏(理論研究会)

第8期決算報告

収入		支出	
費目	決算	費目	決算
正会員会費	696,000	分科会活動助成金	240,000
学生会員会費	23,500	理論研究会助成金	30,000
会友会費	108,500	談話会助成金	52,065
中間報告書	65,500	研修会助成金	30,000
総縦入金	56,000	機関紙印刷費	195,000
預金利息	323	中間報告会費	93,161
寄付金その他	0	総会務費	162,563
会費未納金	86,000	事務費	160,595
合計	1,103,188	予備費	0
		積立	120,000
合計	1,103,188	合計	1,083,384

繰入金 = 1,103,188 - 1,083,384 = 19,804

第9期予算案

収入		支出	
費目	決算	費目	決算
正会員会費	792,000	分科会活動助成金	200,000
学生会員会費	24,000	理論研究会助成金	30,000
会友会費	144,000	談話会助成金	90,000
中間報告書	45,000	研修会助成金	80,000
総縦入金	65,000	機関紙印刷費	230,000
預金利息	19,804	中間報告会費	120,000
寄付金その他	1,196	総会務費	130,000
会費未納金	2,000	事務費	156,000
合計	105,000	予備費	42,000
合計	1,198,000	積立	120,000

監査	塚本勝典	竹内成和(地盤分科会)
"	"	石森信敏(理論研究会)
"	"	川村一治(研修会)
"	"	福井一治(研修会)
"	"	橋本栄治(総務支援)
"	"	中村元則(談話会支援)
"	"	笹木竜三(地域事業分科会)
"	"	福井一治(研修会)
"	"	川村信敏(理論研究会)
"	"	中村元則(談話会支援)
"	"	笹木竜三(地域事業分科会)
"	"	福井一治(研修会)

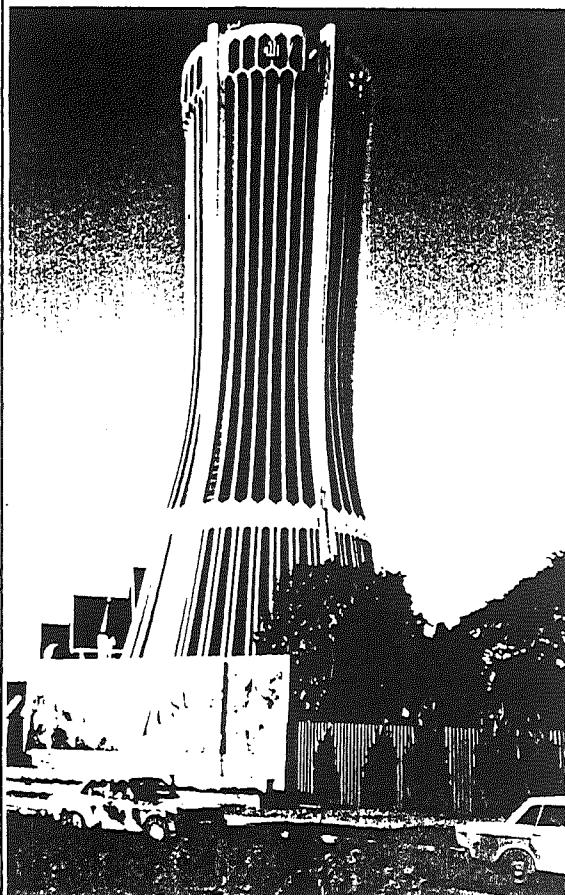
# マレーシア都市調査団 無事帰国！

八月五日、萬匠氏を団長、花岡氏を顧問とするマレーシア都市調査団は大阪空港を飛び立ち、九日、すべての日程を消化し、無事帰国しました。今回は、山梨大学からも七名参加していただき、総勢十四名による調査となりました。

二日目の午前中にクアラルンプール市内をバスで観光し、午後から早速班別調査を開始しました。三日目からは、山梨班はペナン島方面、福井班はクアラルンプール都市内の調査をそれぞれ行いました。

ところで、マレーシアという国は、一九六三年に成立されたばかりのまだ若い国であると聞きます。やはり異国とあって、まず人々の生活の違い、民族の多様性といったことが感じられました。生活のテンポは日本と異なってゆったりとしていましたが、そのなかにあふれる活気には驚かされました。マレーシアは、イスラム系、インド系、中国系の三民族で構成されていますが、それぞれが融合し、お互い調和しながら暮らしているという感じがしました。中国系のチャイナタウンは活気にあふれ、大変にぎわっており、その店々からは中国人商人パワーというものがひしひしと感じられました。またイスラム寺院、ヒンズー寺院もそれぞれ個性的な感じで、マレーシアという一国にきて、三国の雰囲気を同時に感じることができたような気がしました。

(T・N)



## 第七回海外研修 役員及び班構成

### (一) 役員

顧問 花岡 利幸 幹事 滝 裕孝  
団長 萬匠東亞男 記録 山瀬久美子  
副団長 曾雌 孝義 写真 黒原康一郎  
添乗員 阪急交通社 水谷 由美

### (二) 班構成

① 都市交通調査班 (R.E.F.) 四名

班長 中川大志郎 (福井大学大学院)  
滝 裕孝 ( )

黒原康一郎 (福井大学学生)  
山瀬久美子 ( )

② 水辺環境調査班 (R.E.F.) 三名

班長 岡田 哲人 (福井大学大学院)  
萬匠東亞男 (福井土木事務所)

津田 直昭 (津田技術士事務所)  
リゾート調査班 (Y.R.P.) 七名

班長 大山 敦 (山梨大学)

花岡 利幸 ( )  
高松 治 (大日本コンサルタント)

松田 敏彦 (甲府市道路維持課)  
曾雌 孝義 (山梨県都市拠点整備室)

中村 克巳 ( )  
飯野 照久 (山梨県都市計画課)

## 第二回 談話会

第三回 R.E.F. 談話会が、六月二十三日 (木) 午後六時三十分から県職員会館二〇一号室において開催されました。

今回は、三和測量建設㈱取締役の木村太郎氏を講師に迎え、地方都市における都市計画行政についてお話し下さいました。

木村氏は長年地方都市の都市計画行政に携わってこられ、その経験談を交えながらお話し下さいましたので、講演内容は我々にも非常にわかりやすく、また興味深いものでした。また講演後の質問に対しても貴重な意見をいただき、わずか二時間余りでしたが、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

## 第十回 理論研究会

第十回理論研究会が、七月十三日 (水) R.E.F. 会議室で開かれました。出席者は石森氏、加藤氏、児玉氏、前川氏、笛木氏、一守の六名で、石森氏 (第四章「知能革命」と「知能社会」の本質)、笛木氏 (第五章 日本の「知能革命」) の発表でした。

『知能革命』は今回で終了し、次回からの教材については、児玉氏から上田篤氏の著書はどうかという意見が出され、現在検討しています。

なお次回の理論研は、九月六日 (火) 六時三十分からで、そのなかで新教材を正式に決定する予定です。